

廃校シェアオフィス活用による地域活性化

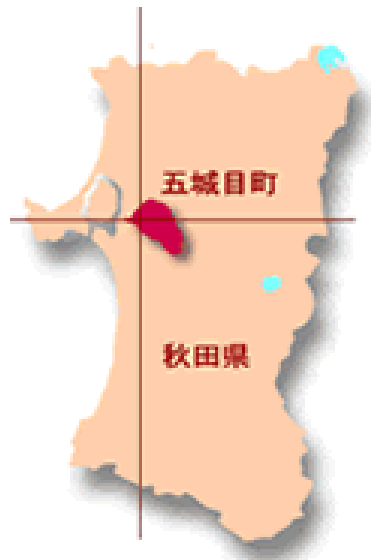
取組のあらまし

- 取組団体 秋田県五城目町・指定管理者：（一社）ドチャベンジャーズ
- 取組内容 廃校シェアオフィス「BABAME BASE」を地域の中と外を繋ぐ、共創・交流の拠点施設として活用することで起業促進や雇用創出等の地域活性化を図る取組
- 推進体制 5名（令和6年度）
- 予算等 12,456千円（令和6年度）

1 秋田県五城目町の概要

人 口	8,060人	令和6年1月1日現在（住民基本台帳人口）
職 員 数	72人	令和6年4月1日現在（一般行政部門）
総 面 積	214.92km ²	令和6年1月1日現在（国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」）

図表 1 秋田県五城目町の位置図



出所：五城目町ホームページ
 (<https://www.town.gojome.akita.jp/town/sosikiannai/machi/koho/6>)

2 取組の背景・目的

（1）人口減少と高齢化の課題先進地である五城目町

秋田県南秋田郡五城目町は県庁所在地の秋田市の中心部から北へ 30 キロメートルほどの場所に位置している。急峻な山岳地帯や肥沃な水田地帯に恵まれ、農林業が基幹産業である。一方で、中心部では 500 年超の伝統を誇る露天朝市「五城目朝市」で、農作業に必要な道具や四季折々の農産物を陳列する露店が並ぶ等、商工の町としても栄えた歴史を有している。

五城目町の総人口は昭和 40 年（1965 年）をピークに減少を続けており、国勢調査によると、五城目町の総人口は、平成 12 年（2000 年）の 14,161 人から令和 2 年（2020 年）は 8,544 人と、20 年間で 30.9%減少している。

また、高齢者率の高さも深刻である。国勢調査によれば、令和 2 年（2020 年）の町の総人口に占める 65 歳以上人口の割合は全国平均で 28.6%であるが、五城目町は 47.3%である。五城目町は、全国的にみても人口減少・高齢化が著しく進み、それによる地域経済の活性化や雇用の創出といった点で課題を抱えていた。

（2）地域活性化支援センター「BABAME BASE」の誕生

地域活性化支援センター「BABAME BASE」（以下、「BABAME BASE」という。）は、廃校となった旧馬場目小学校を企業誘致の場として利活用する形で平成 25 年（2013 年）10 月に誕生した。旧馬場目小学校は平成 23 年（2011 年）に小学校との統合が決定した。廃校後の校舎の利活用について町役場の委員会や町内会を中心に検討が進められるなかで、五城目町の課題である新しい雇用の創出を生み出せるような企業誘致の場として小学校の校舎を活用することが決まった。

小学校の規模感や環境は、五城目町の企業誘致のターゲット層のニーズにマッチしている。当時、五城目町では大企業や製造工場等をターゲットに誘致を進めていたが、近隣市町村とも競合し、円滑には進んでいなかった。そのため、企業誘致のターゲット層をサテライトオフィスや支社向けに切り替えた。小学校の教室等はオフィス利用としては十分な広さがあり、低廉な入居費用（2 万円～）の魅力から起業家等が集まる施設となっている。これまでに入居した事業者等はシェアオフィスも含め延べ 44 件に達している。

図表 2 BABAME BASE



出所：五城目町役場ホームページ

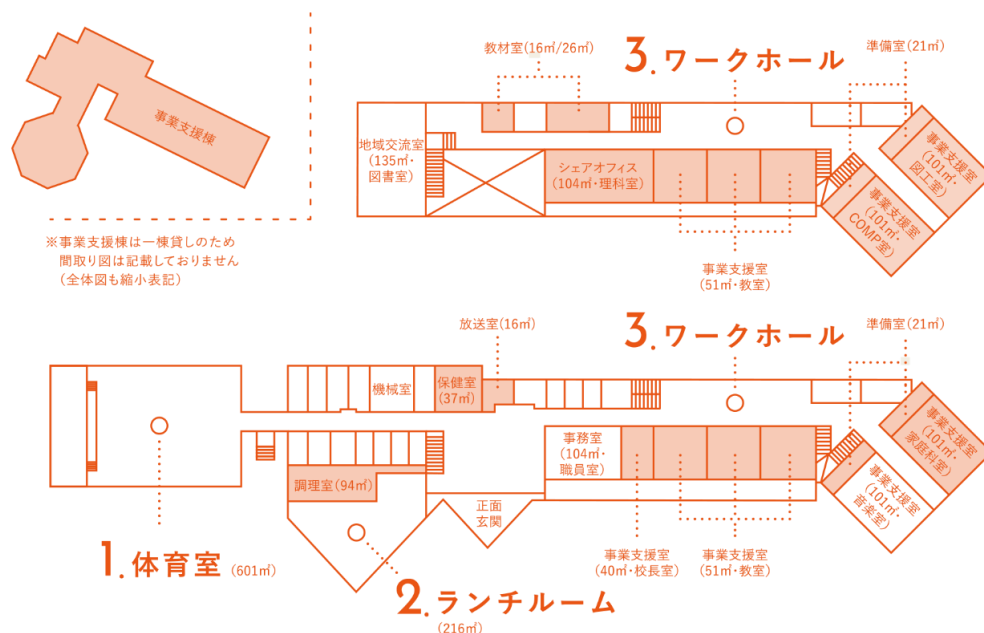
(https://gojome.net/map_post/%E5%9C%B0%E5%9F%9F%E6%B4%BB%E6%80%A7%E5%8C%96%E6%94%AF%E6%8F%B4%E3%82%BB%E3%83%B3%E3%82%BF%E3%83%BC/)

3 取組内容

(1) 小学校ならではの魅力的な建築

BABAME BASE は木造2階建ての建物であり、小学校ならではの広々と開放的な空間や窓からの雄大な景色、こども目線の設計に特色がある。施設の運営管理は平成31年（2019年）4月からは一般社団法人ドチャベンジャーズが担っている。

図表 3 BABAME BASE の施設概要



出所：BABAME BASE ホームページ (<https://babame.net/schoolmap.html>)

BABAME BASE の主な施設として、事業支援室・事業支援棟、体育室、ランチルーム、ワークホールがある。

事業支援室・事業支援棟は、起業家等が新たな事業創出等の挑戦を行う場となっている。もともと教室や教材室、図工室等と使われていた場所をオフィスとして開放している。入居

するための主な要件として、新たな事業等を創出する方や地域産業及びコミュニティ活動の振興に寄与することが期待できる事業を行う方等を挙げているため、挑戦を志す個性あふれる入居者が集まっている。入居する企業はデザイン会社、イベント企画会社、出張美容室、ものづくり会社、コンサル会社、ドローン教習所等、業種は幅広い。地域おこし協力隊の活動拠点でもある。

体育室やランチルーム、ワークホールでは、セミナーやワークショップ、講演会や交流会等、入居者や地域住民が共創・交流する場として機能している（図表4）。

上記のように、BABAME BASE は起業家等の入居者に対して単なるシェアオフィスの場を超えた、共創・交流する場を兼ね備えている。また、挑戦を志す個性あふれる入居者による多業種のチャレンジがあふれており、起業家等の新事業挑戦に向けた拠点として機能している。

図表 4 主要施設



出所：BABAME BASE ホームページより当機構作成

（2）地域内外の共創・交流を生むイベント

地域内外の共創・交流を生むイベントの具体的な取組として、BABAME BASE 周年祭が挙げられる。

BABAME BASE には、地域活性化の好事例として県内外から視察に訪れる施設であるが、地域住民が日常的に利用する施設ではないことから、入居企業の活動内容の周知を図り、地域住民も、気軽に来訪してもらう契機として開催する「BABAME BASE のお祭り」という位置づけで行われる行事である。

令和6年（2024年）11月30日に開催された「11周年祭」では、センターの活動紹介や館内見学だけにとどまらず、地域住民の活動発表の時間もとられ、約150名が来場する大規模なイベントとなっている。入居企業と地域とのかかわりだけでなく、地域住民同士の交流の機会ともなっている。

4 成果・課題

（1）取組の成果

BABAME BASE を拠点施設とした活動が地域活性化にもたらした成果として、ア 地域コミュニティ再生に向けた基盤の確立、イ チャレンジ精神の地域全体への波及 が挙げられる。

ア 地域コミュニティ再生に向けた基盤の確立

BABAME BASE で行われるイベントは地域住民にとっても参加しやすい場である。その結果、行政・起業家等に加えて地域住民が参画する地域コミュニティが形成されている。地域住民が起業家等の活動を知り、地域課題を掘り起こす機会になるという点で、住民参加による地域コミュニティ再生に向けた基盤が確立されたことは大きな意義がある。

イ チャレンジ精神の地域全体への波及

BABAME BASE による地域外の起業家等による地域住民を取り込んだチャレンジは、地域内／地域住民の内発的なチャレンジ精神を醸成する。例えば、平成 28 年（2016 年）から始まった「ごじょうめ朝一 plus+」では、伝統ある「五城目朝市」の出店要件を緩和し、地域住民によるお試し出店等、地域における創業を促進している。

「ごじょうめ朝一 plus+」に代表されるように、地域や地域住民主導による自発的なさまざまなチャレンジが生まれている。

（2）今後の課題と展望

平成 12 年（2000 年）に竣工した建築物ではあるが、施設の老朽化は避けては通れない課題であり、その管理や維持については、今後の課題として挙げられる。

関連・参考資料

BABAME BASE ホームページ

・ ABOUT

<https://babame.net/about.html>

・ SCHOOL MAP（学校案内マップ）

<https://babame.net/index.html>